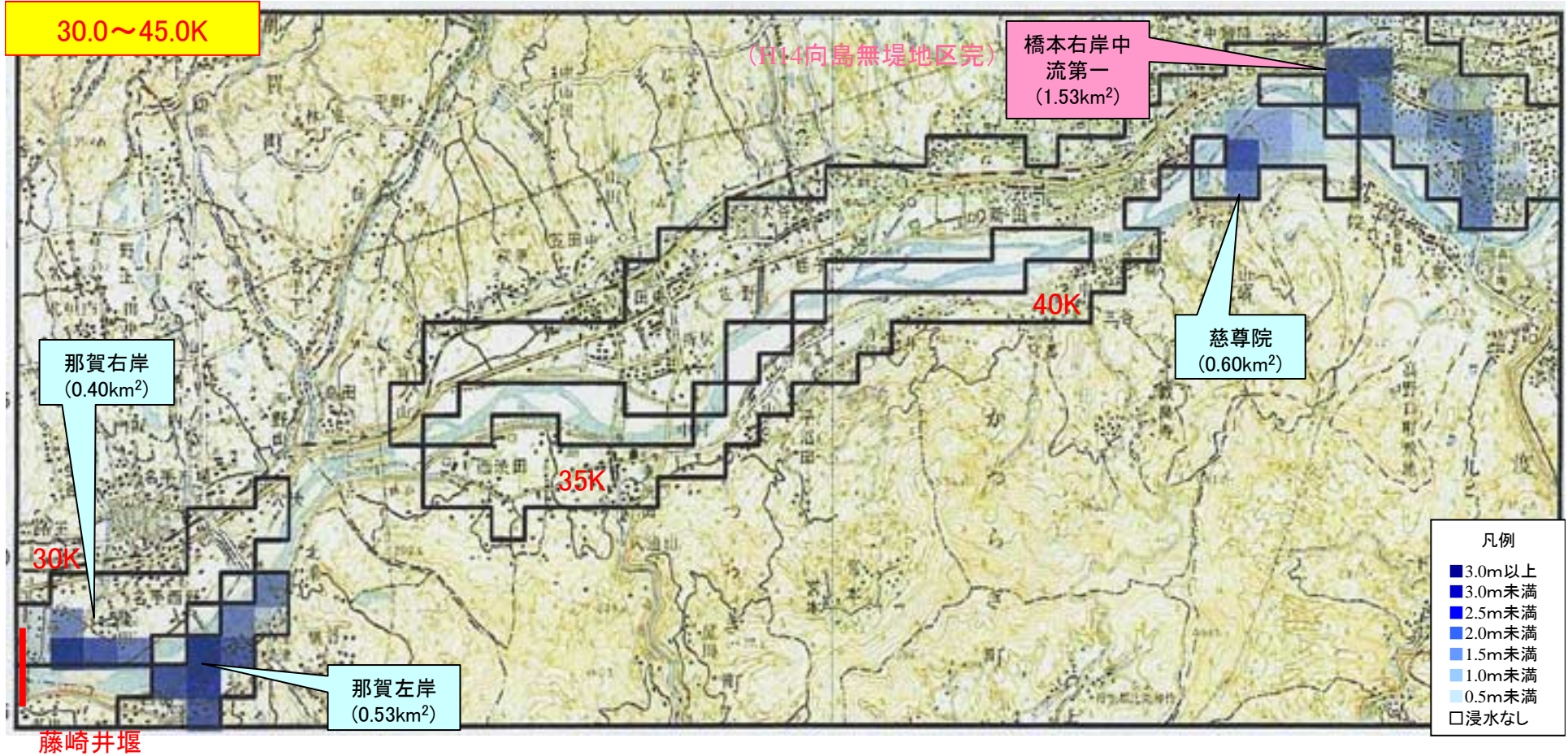


# 藤崎狭窄部

# 昭和34年9月型洪水(計画雨量313mm) における氾濫状況(3)

大滝ダム  
2500m<sup>3</sup>/s一定放流

## ▼現況(藤崎狭窄部・慈尊院地区)





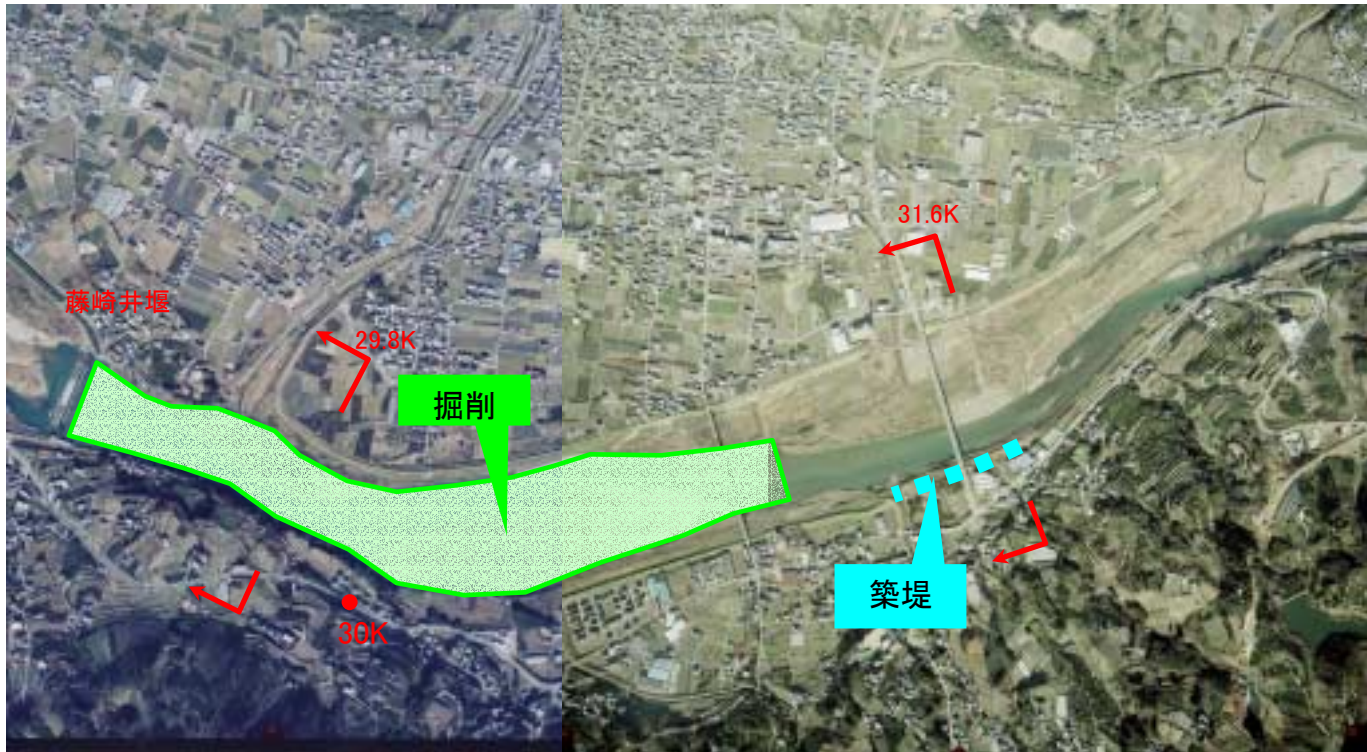
# 藤崎狭窄部の対策(案1)

## 掘削+築堤



# 藤崎狭窄部の対策(案1)

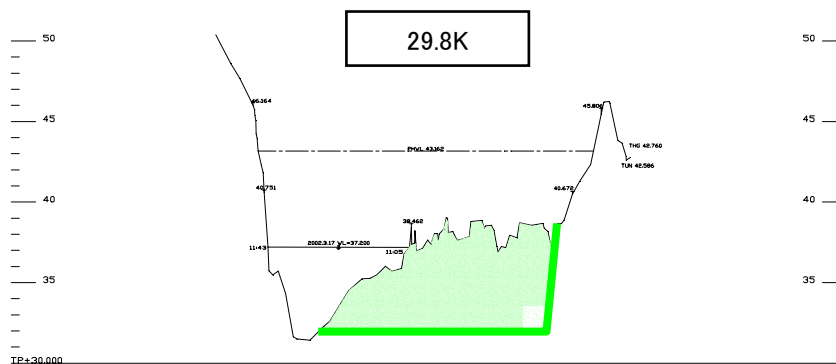
## ▼藤崎狭窄部の対策



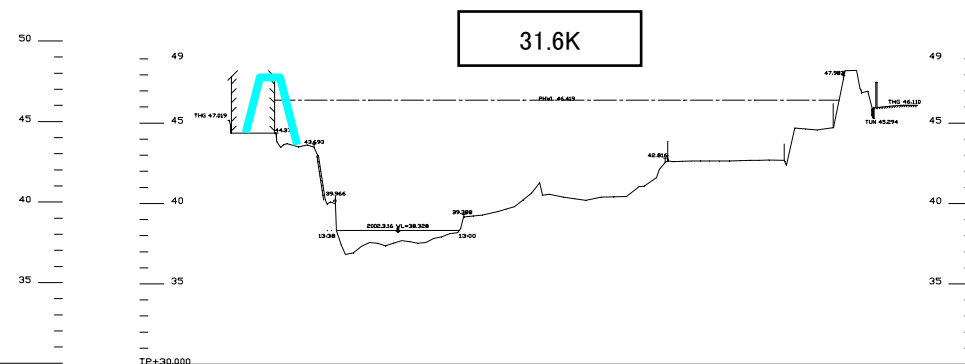
## ▼事業費

工種	金額 (百万円)
掘削・低水護岸	10,294
築堤	741
合計	11,035

## ▼掘削



## ▼築堤







# 藤崎狭窄部の対策(案1)

## 【景観について】

- ・名手川合流部には「藤崎の法華経岩」がある。
- ・藤崎弁天は、紀の川第一の景勝地といわれ県の名勝に指定されています。
- ・藤崎弁天は、紀仙郷県立自然公園に指定されています。
- ・竜門山、紀の川の清流や川中の富士岩などが眺められ、また丘の上には、弁財天が御祀られていて、春は遠足、夏は鮎釣りやキャンプに利用されています。



↑①名手川合流上流付近(右岸)



↑②名手川合流部下流付近(右岸)



↑③藤崎弁天付近(右岸)



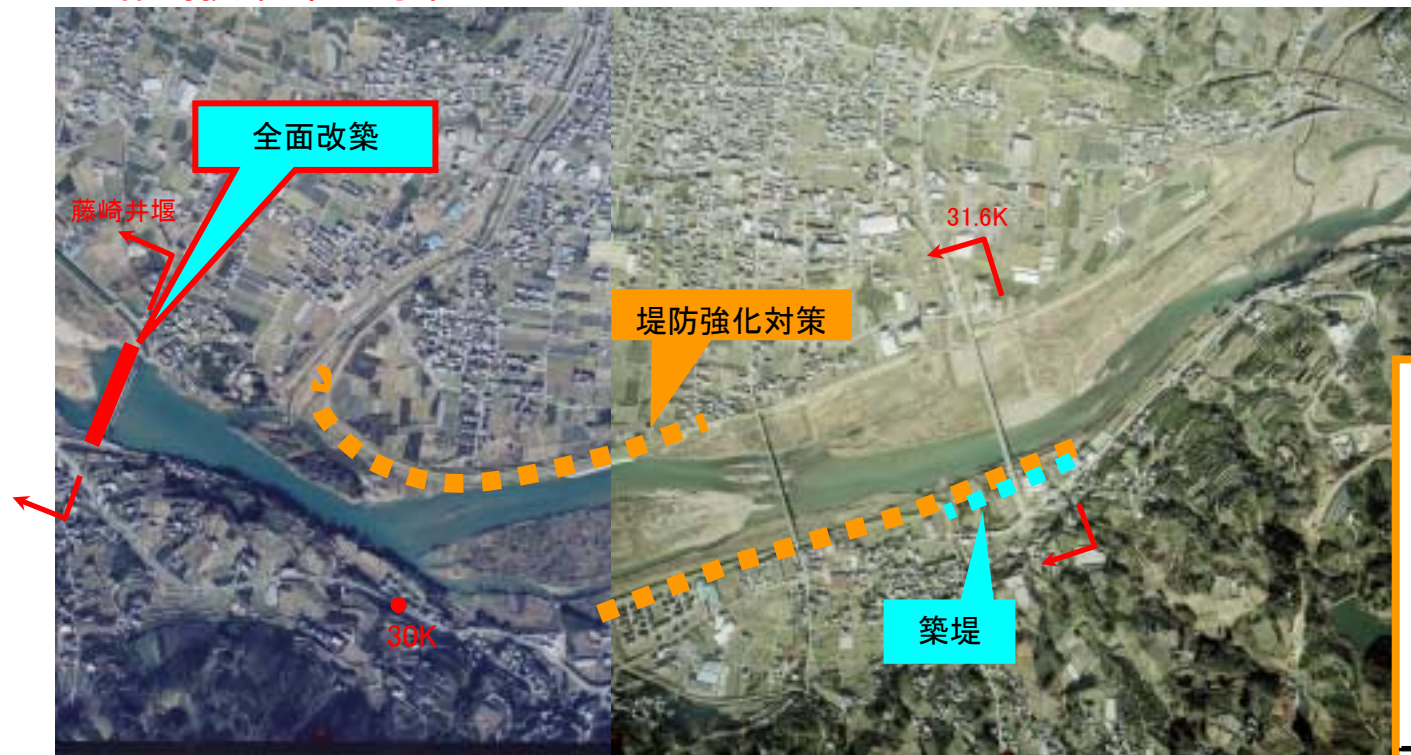
# 藤崎狭窄部の対策(案2)

## 全面改築＋築堤＋堤防強化対策



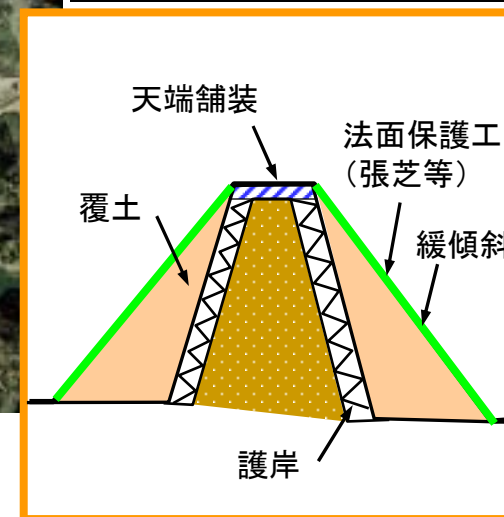
# 藤崎狭窄部の対策(案2)

## ▼藤崎狭窄部の対策

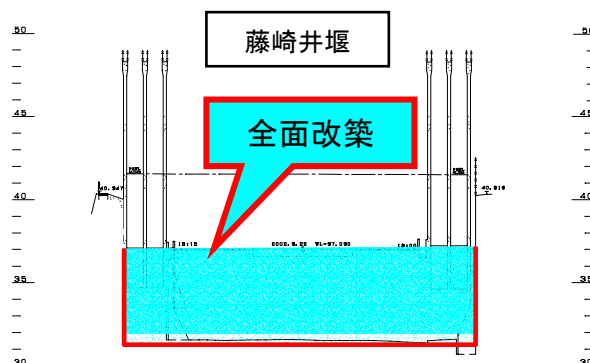


## ▼事業費

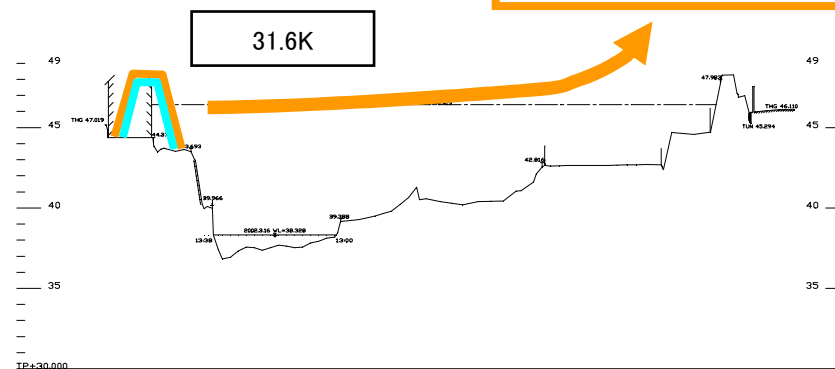
工種	金額 (百万円)
全面改築	45,736
築堤	741
堤防強化対策	836
合計	47,313



## ▼全面改築+掘削



## ▼築堤+堤防強化対策

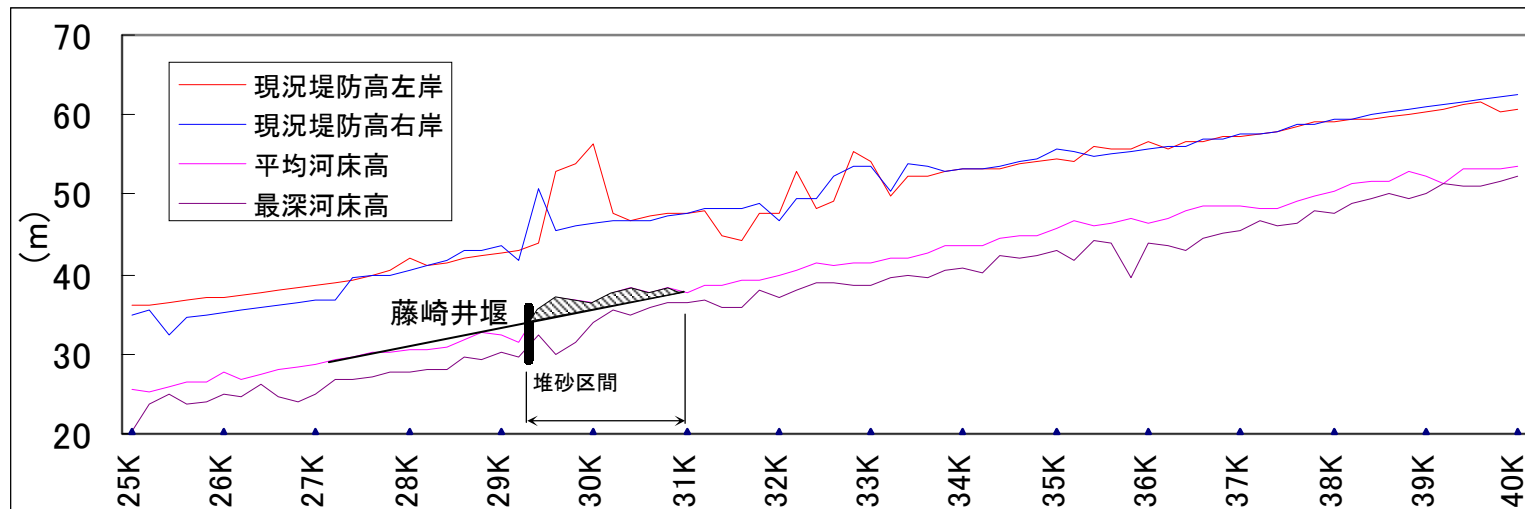




# 藤崎井堰上流部の 土砂移動について

藤崎井堰による上流部の堆砂区間は、藤崎井堰～30.8K付近と考えられる。

従って、井堰を可動化することによって井堰上流部の土砂は、下流へ移動すると考えられる。



# 藤崎狭窄部の対策案の比較

## 【掘削＋築堤(案1)】

(メリット)

- ・事業費が比較的安い。
- ・計画規模の洪水による氾濫が解消され、有効な土地利用が図れる。

(デメリット)

- ・景勝地となっている井堰上流部の中州を掘削する必要がある。

## 【全面改築＋築堤＋堤防強化(案2)】

(メリット)

- ・井堰を全面改築(可動化)することで井堰上流部の堆積土砂の流下が期待できる。
- ・環境への影響を軽減。

(デメリット)

- ・計画規模の洪水については、堰改築後の土砂移動に伴って量的安全性を確保するまでに時間を要する。